

【オリコンサル 交通事故削減で子会社 海外展開、地域活性化にも】

オリコンサル 交通事故削減で子会社 海外展開、地域活性化にも

オリエンタルコンサルタンツは17日、交通事故削減や車両管理などのサービスを提供する子会社「トータルフリートサービス」(本社・東京都渋谷区、大西康弘社長)を設立したと発表した。発展途上国にも2015年度から展開するほか、地域活性化にも活用を考えている。

3年後は顧客が年間5000台、受注額が2億円、売上高営業利益率が20-30%を目標としている。

トータルフリートサービス(本社・東京都渋谷区、大西康弘社長)を設立したと発表した。発展途上国にも2015年度から展開するほか、地域活性化にも活用を考えている。

現在、大手外資系製薬会社と契約して37台の運用を始めているほか、導入のためのテスト運用を数社で実施している。北九州市とは、データ活用の実証実験を共同で実施、1月からドライブレコーダーを公用車に設置している。

新会社は、「車録(シャーロック)」「車両管理BPOサービス」「Dr.ワトソン」の3つのサービスを提供する。車録は、車両に設置したドライブレコーダーのデータ

オリコンサルの野崎秀則社長は、「起業家精神を持つ人材の育成と、グループが連携してサービスの総合化を図る」ことが狙いと述べた。

オリエンタルコンサルタンツ(株)トータルフリートサービス(左から)野崎、大西、美濃部社長



コンサルが実施している。新会社は3つのサービスを自社で提供するほか、グループ会社とも連携して共同で提供する。車録の1台当たりの利用料は、データの閲覧と分析が月1000円、コンサルサービスが同2000円で、年間では合計3万6000

ル